
げんこつ山のたぬきさんについての考察

月並

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

げんこつ山のためきさんについての考察

【Nコード】

N3345I

【作者名】

月並

【あらすじ】

げんこく山のためきさんから読み取れるもう一つの意味。そこから、様々な文化が垣間見えます。

げんこつやまのためきさん

おっぱいのんで

ねんねして

だっこして

おんぶして

またあした

- - - - -

この誰もが知っている童謡なのだが、これについて少し考える所がある。

まずはこの最初の「おっぱい飲んで」の部分である

これは一見すると母狸が子狸に授乳しているようであるが、ここには主語が存在しない。

つまり、子狸である必要は無いのだ。これは単に胸を吸っているだけとは考えられないか。

そう考えると少しやらしい。

それだけならアホな小学生が「おっぱいしゃぶるとかエツロ〜（エロいですねの意）」とか爆笑しながら騒いで終わりである。おっぱいにやたら反応する哀れな存在である。

しかし、歌詞はまだ謎を残す。

『ねんね』とは言わずとも『寝る』ことを指す。

しかし、この寝るは睡眠だけではなく、夜這いを指す言葉であることは読者も承知のことであろう。

つまり、おっぱいを飲んで寝るのである。

『しゃぶる』では無く『飲む』という点が少し性行為とは違う印象を与えるが、そういうプレイもあるので問題無い。

ここまでで大分雲行きが怪しくなってきた。

それでも、それはただのこじつけだと思っ人も居るだろう。

しかし、次の歌詞を見れば答えは明らかになる。

『だっこして』、『おんぶして』

違和感を感じないだろうか？

もしも本当に睡眠をとっているのなら、わざわざ抱っこする必要も、おんぶする必要も無い。

ここで子狸説は完全に消滅するのである。

では、これはどういう意味か？ これは簡単である。

明らかに

『だっこ』は駅弁、

『おんぶ』はバックを表しているのである。

つまり、ねんねは夜這いの開始を意味し、後の二行は内容を表していると思われる。

とすれば、『また明日』という点も解決である。

睡眠の後にまた明日はおかしい。睡眠の後は既に明日なので、本来は「ねんね」が完了する前に言うべき所ものである。

そういうわけで、ねんねは睡眠を指さず、『ねんね』から『また明日』までは同質の時間経過、つまり日付が変わっていない事が見えてくる。

よって、また明日とは事後の別れの言葉であり、「また明日も付き合ってね」という狸の甘い誘惑に他ならない。

この解釈によって、この歌が

『胸を髑り』 『夜這いを始め』 『駅弁』 『バック』 『別れの契』

ということでも雅な歌詞であることがわかった。

『げんこつ山のためきさん』のげんこつは、フィストファックで間違い無い。

山が孤立してしまうが、これは岡山、武山のような名字だと解釈すれば問題無い。

要するにフィストファック山である。

昔は名字の変わりに地名を使っていたので、何ら不思議は無い。

つまり、こついうことになる。

.....

フィストファック山のためきさん

おっぱいなので

ファックして

ファックして

ファックして

またあした

.....
これを子供に歌わせてはいけない……。

今まで問題にならなかったのが不思議なぐらいに淫猥な歌詞である。

だが、解釈はまだここに留まらない。

『おっぱいのんで』『おんぶして』から続く『〜て』は並列、つまり『and』と同じ接続詞だと解釈されてきた。

確かに、文法上はそれで問題無い。

しかし、これが性交の歌とわかった今、これが第三者視点であることに違和感を覚えなければならない。

性交とは大っぴらにすべきではないという考えはどの民族にも共通している。

性交はあまり目の触れない所でやるものである。

となれば、これは誰の目にも触れられていない、つまり一人称視点の歌詞だということがわかってくる。

そうするとどうだろう。この『〜て』が願望を表す『〜て』であることが明らかになるのである。

つまりこつこつこつとである。

- - - - -

フィストファック山のためきさん

おっぱい飲んでえ！

ねんねしてえ！

だっこしてえ！

おんぶしてえ！

また、明日……、……ん

- - - - -

とんもない淫乱狸である。上の口も下の口も正直である。

ここまでで腑に落ちない人も中に入るかもしれない。

こんな歌が童謡になるはずがない、と。

日本は性に開放的な民族である。明治や昭和においては西洋文化の吸収によってか、その側面は覆われてしまったが、筆卸や処女を捨てるという風習は確かに存在したのである。

現代の乱れた性は私も閉口するが、性に対する関心という点においては日本民族はトップクラスである。

触手が春画として数百年前に存在していたことを知る人も多いのではないだろうか。

東大寺には当時の大工の描いたと思われる、巨大な一物を持った男の落書きが多数存在することも知られている。

様々な隠語を含む民話の中には、このようなものが含まれていてもなんらおかしくないのである。

性から目を逸らしては日本人は語れない。我々は風潮に怯えて、何か大事なものから目を逸らしているのではないだろうか。

(後書き)

この文章は作詞者に対しての誹謗中傷を目的としておりません。これは民俗学を始めとする学問における文化に対する様々な解釈に感銘を受け、その模倣として人々に愛される歌に対して、自分なりの解剖を行った結果です。

多少ふざけているのは私の作風としてご了承頂ければと思います。

これでアフターケアもばっちりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3345i/>

げんこつ山のたぬきさんについての考察

2011年1月20日02時53分発行